

育てた綿 丁寧に摘む

倒れた枝や葉をかき分け、綿を探して摘む生徒(左)＝木津川市山城町・府立山城郷土資料館



南山城支援学校生 台風で実りは減少

南山城支援学校(精華町山田) 高等部の3年生4人が1日、木津川市山城町の府立山城郷土資料館を訪れ、敷地内の畑で5月に種ま

きをした綿を収穫した。

今年は台風の影響などで実りが少なく、貴重な綿を探して丁寧に摘み取った。

生徒は同市の相楽地区で明治から昭和初期に作られた「相楽木綿」を学んでおり、3年前から資料館で綿を育てている。

生徒たちは、強風で倒れた枝や葉をかき分け、宝物を探すように綿を見つけては一つ一つ丁寧に摘み取っていた。

摘んだ綿は持ち帰って種を取り、糸にして織ってコースターなどの製品を作る。来年2月の販売実習で並べる予定。(逸見祐介)

京都新聞 2018/11/2 山城版